



競技ごとの応援マナーを知り、選手も観客も清々しい気持ちとなる熱い応援を届けよう。

応援の心得！



氣を信じるかどうかは個人の価値観ですが、応援する気持ちは目に見えない力となって選手に届くような気がします。先日の全国高等学校野球選手権鳥取大会 第1試合の米工対八頭の試合では、2点リードされた9回表2アウトから山根凜太郎君がツーランホームランで同点に追いつきました。熱い応援が届いたのでしょうか。また、選手の活躍は応援団を一層熱くさせます。目に見えない気持ちが呼応しているようです。部活単位での応援もあり、多くの方の声援は選手にとって大きな力になったことと思います。部活単位でお互いに応援しあえるチーム米工としての部活動が広がると嬉しいですね。

応援にはその競技ごとにマナーがあります。賑やかに応援する競技もあれば静寂を保つ競技もあります。たとえば、陸上競技のスタートや、テニスやバドミントンのサーブの瞬間など、選手たちが集中力を発揮しなければならぬタイミングでは、応援する側は音を立てるのを控えて静かに見守ります。

応援する側の感覚で応援し、選手のコンディションを狂わせたり、選手や他の観客の気分を害したりする応援は避けなければなりません。

共通なマナーとしては、相手チームや選手に対して敬意を払い、差別的、侮辱的な発言はしない、試合の妨げになるフラッシュ撮影はしない、ゴミを出さないなどがあります。さらに、敵味方関係なく、選手の素晴らしいプレーを賞賛すれば、会場に集う全員がスポーツマンシップを満喫できるでしょう。

この夏は、米子が弓道とウエイトリフティングのインターハイ会場です。柔道、剣道などの道のつく競技は共通して厳しい作法があります。弓道では静かに観戦することが求められ、応援は的中時のみ拍手や「よし」の発声に留められています。ウエイトリフティングでは、選手がバーベルを握ったら応援を一旦やめ、静寂を保ちます。インターハイでも選手が力を発揮できるよう、皆で熱い応援を届けましょう。

校長 松川 明義



【行事予定】

- 15日(火)～17日(木)：保護者懇談会
- 16日(水)、17日(木)：スタディサプリガイダンス
- 18日(金)：基礎力診断テスト・適性検査(1・2年) SPI模試(3年)
- 22日(火)：終業式

